

第七回

日本は畜産に

向いているか その一

酪農家のみなさまがお読みになつて、「らくのうだより」でなんてテーマだ、と自分でも思いますが、今回はあえてこのテーマについて書いてみたいと思います。

実はわたし、「日本は畜産に向いていないんじゃないか」と思っていた時期がありました。それを感じるきっかけになったのがモンゴル訪問です。もう十年近く前になりますが、夏休みを利用して、母と一緒にでかけた時です。

モンゴルというと、雄大な草原、どこまでも広がる地平線、遊牧民たちとその住居であるゲルなどが思い浮かぶのではないのでしょうか。私が訪問した限りは、本当にそのイメージのままでした。八月なのにセーターを重ね着し、夜は寒いのでゲルの中でストーブをガンガン燃やす、これが冬になったらどんなことになるのか：想像するだけで恐ろしい。そんな気候のモンゴル、当然この寒さでは作物は育ちません。

ゲルで出された晩ごはんは、煮込まれた大量の羊肉に、申し訳程度に置かれた米とゆで野菜でした。同行していたガイドさんが「モンゴルは野菜も米も全部中国から輸入しています。モンゴルは草地しかなくて、農業に向いていないんです。草地しかないので、畜産をやるしかない

んですよ。日本は暖かくて雨がたくさん降るから畑がいつばいあるのですよね？お米も野菜もとれるのでしょ。海が近くて新鮮なお魚も食べられて、とても羨ましいです」とニコニコ話しながら説明してくれました。モンゴルは内陸国。寒く乾燥した大地のため、いわゆる耕作はほとんど行われていません。でもその分、日本ではほとんど目にする事のない『地平線』が広がるほど広大な草地が広がっており、畜産が大変盛んです。私は「こんなにたくさん牛や羊がいて、お肉が安くてたくさん食べられるモンゴルも素敵などころですね。日本は土地が狭くて、家畜のエサを外国から買っているのとお肉がとても高いんですよ」と答えました。するとガイドさんがとても驚いた顔をして、「日本は家畜のエサを外国から買っているのですか？モンゴルは草しか生えないので、畜産しか出来ません。野菜や米が育つ畑があつて、魚も取れるのに、外国からエサを買ってまでわざわざ畜産をやる意味がわかりません。外国からエサを買うならモンゴルから安いお肉を買いえばいいのではないですか」と言われました。

その時に「モンゴルの人はそんな考え方をするのか！」こともすごく驚くとともに、まともにガイドさんに回答できない自分がいました。

草地しかないモンゴルにとって、畜産は仕方なくやるもの。一次産業として、農業も漁業も出来ないから、消去法で畜産をしている。そういう国から肉を輸入すればいいのに、どうして家畜のエサを輸入してわざわざ畜産をしているのか。

答えが出ない私は悩みました。その結果…は、紙面がないので次回にいたします。

リサイクルコーナー

簡易育成牛舎等の材料にいかがですか!?

” 現地・現状渡し ” 古木「電柱」のご案内



(約 1m 木柱:約 100 本)



(約 4m から 6m:約 100 本)

太さにはばらつきあり

不要になった『古い木電柱』があります。

簡易育成牛舎等の材料に活用出来るものと考えます。必要な方は、直接お問い合わせ下さい。

お問合せ先 廿日市市津田 1451-4  
架材産業株式会社・佐伯工場 電話番号:0829-40-1065 担当者:西岡工場長